

特別研修終了届兼報告書

所 属 文学部 日本語日本文学科

職 位 教授

報告者 吉田 弥生

私は、2021年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」（2000年5月22日制定）第11条第2項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	黙阿弥作品の成立論および作劇術の研究
研修先 (国・都市・研究機関等)	早稲田大学演劇博物館
研修先指導者 (不在の場合は記入不要)	
研修先及び指導者 選定理由	招聘研究員として採用されたため

2. 研修日程

日程	渡航先・滞在地	研究機関名	備考
4月 1日 ～ 3月 31日	日本・東京都新宿区	早稲田大学演劇博物館	
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			

3. 研修報告

(1) 実施概要：研修内容（具体的に記載）

これまでの研究成果への補充的研究（①黙阿弥作品の場割構成の分析比較による構造的な特異性の証明②作中滑稽浄瑠璃の位相③小説・話芸を主とした脚色作品のうち未開拓作品の調査④河竹家旧蔵博物資料の紹介解説）を目的としたが、結果的にはより緊急性のあるテーマを優先した調査に注力することとなった。既に黙阿弥作品を造形した要因としての「役者の身体」について自著『江戸歌舞伎の残照』にまとめたが、なかでも立役では四代目市川小團次、女形では三代目澤村田之助の身体は作品成立に多大な影響を及ぼしたといえる。その役者たちの容姿や演技、劇界での位置をあらゆる資料のひとつが芝居版画である。今日、芝居版画の所蔵機関が有する（現存する）芝居版画はまさに黙阿弥活躍期のものが多く、座頭としての四代目小團次の位相がわかる役者絵や若年より立女形として頭角をあらわした田之助をとらえた楽屋図が参考となる。このたびの研修中は、そうした芝居版画の考証や女形の装いの美に関する展示解説を担う機会に恵まれ、研修先の早稲田大学演劇博物館所蔵番付資料を基に調査を行った。また、四代目小團次は役者の家柄に生まれず、また容姿に恵まれずして演技の工夫と努力で座頭に上るという不世出の出世を遂げた役者として知られるが、世代を遡り、その手本ともいえる存在に初代中村仲蔵がいたといえる。研修中、この初代仲蔵とその時代の歌舞伎上演に関するドラマが制作され、監修をつとめた。なお、コロナ禍における黙阿弥作品上演に関する考察を取めた論文を執筆した。

(2) 研修成果及び今後の進展の見込み

役者の身体が黙阿弥作品を成立させている、という命題のもとに芝居版画を調査した成果として、企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—」の監修・解説を行い、国立劇場が所蔵する芝居版画図録の第18巻を刊行、黙阿弥の初期作品『都鳥廓白浪』（1854）『夢結蝶鳥追』（1855）や四代目小團次との提携が進む当時の代表作となる『小袖曾我薊色縫』（1859）『三題嚙高座新作』（1863）等の新出錦絵を考証・解説を行った。展示では三代目澤村田之助が楽屋において化粧をほどこす様子を描いた錦絵をメインに女形の支度については小道具等を列品させ、表現の手段と目的を「花鳥風月」と結論付けた。図録は「文化デジタルライブラリー」による配信のかたちとなり、関連講演として国立劇場の第82回伝統芸能講座へ招かれた（2022年5月初旬に独立行政法人日本芸術文化振興会HPで無料配信予定）。なお、初代中村仲蔵をとりあげたドラマの監修・考証では、仲蔵の自伝『月雪花寝物語』『秀鶴日記』の解説を行い、従来未詳だった上演作品を特定、当時の番付を基に制作を実現させた。今後においては、2022年12月に同ドラマのリメイク版がNHK地上波で放映予定のほか、上演の現況に関する論考の公開予定、研修当初に予定していた河竹家旧蔵資料目録（『河竹家旧蔵・黙阿弥関係資料 目録と解説』（仮題））の公開も準備がある。

4. 研修成果物

研修成果物(著書・学術論文・研究発表・演奏会等(予定も含む))の発表時期等

- ①【監修・解説】企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—」（国立劇場伝統芸能情報館、2021年10月2日～2022年1月27日開催）
- ②【監修・考証】ドラマ「忠臣蔵狂詩曲No.5・中村仲蔵出世階段」（NHK・BS4K/BSプレミアム、2021年12月4日（前編）・12月11日（後編）放送）
- ③【考証・解説】WEB図録『国立劇場所蔵芝居版画等図録 18』（日本芸術文化振興会、2022年2月28日配信）
- ④【招待講演】「第82回伝統芸能講座・国立劇場所蔵芝居版画の世界」（国立劇場伝統芸能情報館、2022年3月8日）
- ⑤【論文】「〈禍〉中の歌舞伎・大いなる〈果〉」（『歌舞伎 研究と批評』第67号、2022年7月刊行（予定））